

## 感謝のおもてなし

盛大にセルプひの夏まつり



スタッフに教わりながら工作をする

日ごろから地域との交流を図っている障がいがある人たちの授産施設セルプひの（根雨）で夏まつりが、8月11日に同施設前で開かれ、多くの人出でにぎわいました。

スタッフは朝から準備し、名物の焼きそばやフランクフルト、かき氷などの屋台は行列ができるほどの盛況ぶり。また、工作や手芸教室には、夏休みの小学生たちが多く参加。一つ一つスタッフに教わりながら完成させていました。

この夏まつりは今年で5回目。顔なじみの人から「頑張ってるね」と声をかけられる姿もありました。

会場では日野高校生による「日野高ショッピング」も開かれました。

## こりゃ、懐かしい

昔を偲ぶ我楽多と写真展



家族が写っている写真を懐かしむ

8月13日から15日まで町歴史民俗資料館を会場に「昔を偲ぶ我楽多と写真展」が開かれ、地元をはじめ、多くの帰省客らでにぎわいました。

昔懐かしい写真のほか、生活雑貨やおもちゃなど思い出の詰まった品物が所狭しと展示され、まるでその時代にタイムスリップしたよう。訪れた人たちは自然と会話が弾み、笑顔があふれました。

帰省した人からは「展示内容が昨年より充実していてすごい。根雨にはよく遊びに来ていた。この写真におじいさんとおばあさんが写っていて懐かしい」と興奮。

子どもたちには、ブリキや古いミニカーなどに人気がありました。

## ふるさとの夏遊び

上本郷で魚つかみ大会



魚を追いかけ、にぎやかな声が響く

8月13日、上本郷地内の川で魚つかみ大会が開かれ、地区住民や帰省した人たち、およそ1000人が出かけてにぎわいました。

今年は300匹のニジマスとヤマメが用意されました。自然の川をせき止めてつくられた会場に魚が放たれると子どもたちは大喜び。濡れながら魚を追いかけ、あちこちで歓声を上げて魚をつかんでいました。この魚つかみ大会は、上本郷公民館事業の一つで、毎年行われている恒例行事です。

また、13日の夜には上本郷運動広場で盆踊りが開かれ、屋台が軒を連ねたり、ゲーム大会で盛り上がりました。

## 偉大な歴史を学ぶ

たたら楽校夏期講座



たたら楽校の歴史に興味津々

8月21日、根雨のたたら楽校根雨楽舎で夏期講座が開かれ、町内外から多くの参加者がありました。

講師に前江府町文化財保護審議会会長、小田隆さんを迎え、「近藤家の宮市原開田」と題して、江府町宮市原が近藤家によって開墾されていく歴史が話されました。参加者は、近藤家の偉大な歴史に感心しながら聞き入りました。

かつて、奥日野の主要産業だった「たたら製鉄」で地域を盛り上げようと活動している伯耆国たたら顕彰会（佐々木幸人会長）が企画。たたら製鉄のアニメーションが出来上がるなど、同会の活動は盛り上がりつつあります。



動画を流して、活動の様子を紹介する梅林さん

## 支え愛で安心な暮らしを 支え愛を考えるフォーラム

住民共助型のまちづくりを進めようと、日野発「支え愛」のまちづくりを考える郡民フォーラム（鳥取県日野総合事務所主催）が、8月27日、日南町総合文化センターで開かれ、郡内から多くの人が参加しました。他県の先進地事例報告のほか、日野郡3町の支え愛の取り組みが報告され、町からは「ジゲの防人隊」隊長の梅林敏彦さん（下黒坂）が活動を紹介。隊が発足した経緯や、活動中の様子を写真や動画で解説しました。「喜んでもらえることが隊員らの力になっている。さらに活動が広がることを期待する」と梅林さん。会場からは、今後の活動に期待する大きな拍手が送られました。



やさしい笑顔が印象的な若林さん（中央）

## 動く木のおもちやに夢中 木のおもちやづくり夏休み企画

夏休み期間中の8月21日、動くおもちやなどの作家、若林孝典さん（岡山県美作市）を迎え、町図書館車で木のおもちやづくり夏休み企画が開かれました。若林さんと親交のある木のおもちやづくりグループ（金田美紀代表）が企画。「おなほしおじさん」と題したおもちやは口や目が動かせて表情が豊か。まるで会話をしているよう。顔は参加者が自由にデザインできるため、子どもたちは夢中で作りました。「毎年訪れています。これからも交流できれば」と若林さんは参加者に丁寧な指導をしながら、自分も楽しめました。



おしどり荘で贈呈式が行われる

## 地域社会へ感謝を込めて 合銀根雨支店が車いす寄贈

8月30日、「ごうぎん一粒の麦の会」（足達明彦会長）が医療法人社団日翔会にフルリクライニングタイプ車いす2台を寄贈しました。当日は、おしどり荘を会場に贈呈式が行われ、山陰合同銀行米子営業部長の皆廣繁夫さんが入所者の代表に手渡し「長く使ってほしい」と言葉をかけました。受け取った日翔会本部長、原田和美さんは「今回を含め寄贈は初めてのこと。寝たきりの方が増えて車いすが足りない状況だったので寄贈いただき、うれしい」と利用者が安心して生活できることを喜びました。ごうぎん一粒の麦の会は、地域社会への日頃の感謝を込め、社会福祉関係先へ車いすなどを寄贈しています。



各市町村へ交通事故防止対策資材が寄贈される

## 交通事故のない町へ JAが交通事故防止対策資材を寄贈

地域における交通事故防止対策の資材贈呈式が、8月26日、米子市の鳥取西部農業協同組合本所で開かれました。当日は、町交通対策協議会会長の景山町長が贈呈式に出席。同協会に贈呈されたのは、交通安全啓発のぼり旗や立て看板、反射ステッカーやカーブミラーなど多くの交通事故防止対策資材で、今後、子どもや高齢者の交通安全の意識の啓発などに活用される予定です。これは「地域の安全・安心プロジェクト」と題し、鳥取西部農業協同組合が社会貢献活動として、毎年取り組んでいる事業で、今年は交通事故防止対策に取り組みられています。